



講演風景 (写真提供: 川井浩史先生)



参加者集合写真 (写真提供: 川井浩史先生)

最後に、羽生田先生のご講演では、東日本大震災由来の漂着物(JTMD)に着生した海藻類の種及び遺伝的多様性について発表されました。最初のスライドで、海藻にびっしり覆われた浮筏の画像が映し出され、震災による津波の凄まじさと、海藻の驚異的な生命力にただただ驚くばかりでした。津波によって岩手県から流され、遠いアメリカ西海岸まで流れ着いた JTMD であるという証明には、例えば、アナアオサ (*Ulva pertusa*) の遺伝型が使われました。オレゴン州の海岸に流れ着いたボートに付着していたアナアオサの遺伝型は、岩手県のごく一部の地域でしか見られないものであることが判明し、ボートは岩手県の海岸から流されてきたと予測されました。震災によって発生した JTMD により、日本産の海藻が外来種として移入してしまう可能性が示され、これによって生態系に影響が及ぼされないか心配です。

談話会終了後、同大学の食堂で懇親会が行なわれました。奈良らしく、鴨コースのスムークや、柿の葉寿司が並べられていたのが印象に残っています。先生の中には、ご自慢のお酒をわざわざお持ちくださった先生もおられて、ビール、日本酒、ワインと、様々な種類のお酒が並び、贅沢な懇親会でした。先生同士、学生同士、先生と学生といった、幅広い世代で、美味しい食事をしながら、親睦を深められたように思えます。来年度は京都大学で開催されます。歴史ある土地で、よりいっそう熱い議論がなされることを期待します。(神戸大学)

国立科学博物館特別展

「大英自然史博物館展」

Treasures of the Natural World

2017年3月18日(土)～6月11日(日)



8000万点を超える収蔵資料を誇る大英自然史博物館(ロンドン)から、「始祖鳥」の化石をはじめ自然史に名を残す同館の至宝約370点を借用して一堂に展示します。C. Darwin (1809-1882) 著『種の起源』の直筆原稿や「ビルトダウン」の捏造標本も必見ですが、今回藻類研究者にとって見逃せないのは、Kathleen Drew-Baker (1901-1957) が採集した海苔“*Porphyra umbilicalis*”(P. *purpurea*) の標本と“*Conchocelis*”世代の糸状体が内生したザルガイの貝殻です。Drew は、この海苔の果胞子を培養してアマノリ類の生活環を解明し、日本における海苔の人工採苗技術の開発に貢献しました。熊本県宇土市にはその功績を讃える碑が立ち、いまでも毎年4月に「ドゥルー祭」が行われています。是非この機会に“Mother of the Sea”の標本をご覧ください。

(北山太樹)

【国立科学博物館】

開館時間：午前9時～午後5時(金・土曜日は午後8時まで)

入館は各閉館時刻の30分前まで。

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌火曜日)。

入館料：一般・大学生は620円(団体310円)。

高校生以下および65歳以上は無料。

所在地：東京都台東区上野公園7-20

交通：JR山の手線上野駅公園口から徒歩5分。

問合せ：Tel 03-5777-8600(ハローダイヤル)

URL：<http://www.kahaku.go.jp/>